

Osaka City University Alpine Club

Mt.Gurkarmo Ri 6891m Expedition 2011

登山報告書

ネパールヒマラヤ

グルカルポ・リ峰 6891m 登山隊 2011



大阪市立大学山岳会

大阪市北区中之島 3-3-23

中之島ダイビル 805 号

JTC株式会社 内

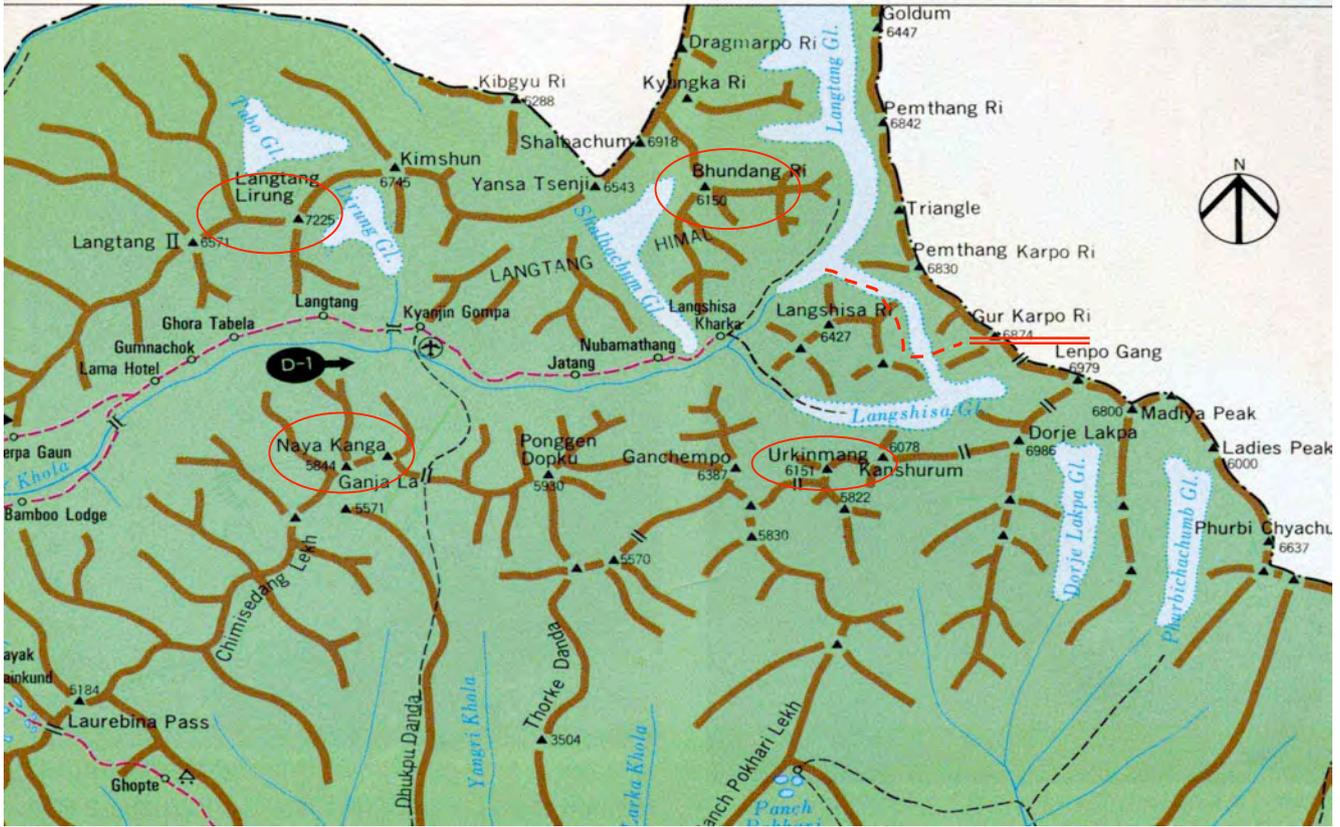
TEL(06)4803-8200

FAX(06)4803-8850

目標

地域 ランタン山群

山名 グルカルポ・リ峰



ランタン・プロジェクト

「グルカルポ・リ（6891m）登山隊2011秋」未登報告

伴 明

グルカルポ・リは、ランタン・ヒマール、ランタン氷河左岸に位置し、モリモトベースキャンプ（4572m）から見ると、北のペンタンカルポ・リ（6865m）と南のランシサ・リ（6427m）にはさまれた東方に伸びる長大な氷河の奥に、ドーム状の偉容を際立たせて天空を限っている。

1998年秋に北大山岳会隊が北西稜に達したが頂上までの稜線をたどれず撤退、2007年秋にはランタン・リを諦めたフランス隊がグルカルポ・リの正面にルートを開拓し400mのヒマラヤひだ雪氷壁を登って頂上に達した。

ランタン・プロジェクトの一環としてグルカルポ・リを候補にあげ、フランス隊と同ルートを取って頂上に達する計画を立て、2011年春決行と決めた。その直前3月11日の東日本大震災により計画を半年延ばし、2011年10月日本を出発することになった。

結果は5627mまでの未登に終わった。メンバー、シェルパの体調良好、C2C3用のテント／食料／登攀用具すべて荷上げされたC2'デポサイト（5544m）にて、10月21日たった1日降り続いた120cmの積雪によりC2プラトーへ上がる二つのルートのいずれもが表層ナダレの危険増大し、退却のやむなきに至った。夜間マイナス16度のC2'デポサイトで過ごした6夜は、凍りつくテント内で3人共1時間半ごとに目覚めて小便に出るといふ地獄、昼間は21日以外快晴の氷河内温度は連日30度近くまで上昇するという天国、毎日の気温は天国と地獄を行ったりきたりと忙しかった。

以下は未登の報告である。

期間 : 2011年10月3日日本出発～11月7日帰国。35日間。

メンバー : 伴 明 (71才)・・・大阪市立大学山岳会会員
佐々木惣四郎 (69才)・・・ “
兵頭 渉 (63才)・・・ “

シェルパ : ミン・テンバ (30才)
パサン・シェルパ (36才)
サンゲ・シェルパ (36才)
コック : ダワ (40才)

キッチンボーイ : 2名

ポーター : 往3名、復なし。

ろば : ドンチェ→モリモトBC 10頭、モリモトBC→シャブルベシ 7頭。

費用 : 1. テント、登攀用具他共同装備用山岳会特別費 ¥552, 432. -
2. メンバー個人負担金 ¥643, 878. -/名

10月3日、伴、兵頭は成田発、佐々木は関空発→BKK着。¥2, 7/BHT.

空港近くのGRAND INNCOME HOTEL泊。

10/4、BKK→KTM。TIBET INNCOME GUEST HOUSE泊。

¥1, 02/NRP (50年前はなんと¥50. -/NRP!)

10/5、カトマンズは1週間続くダサイン祭りで官公庁他休み。

10/6、ごく最近6800m以上の登山料が1400ドルにアップされた。

グルカルポ・リはEXPEDITION MOUNTAIN扱いとなりリエゾン・オフィサー代1800ドル追加、シェルパ、コックの保険代アップ、以上の条件を満たした上で観光省登山局（ダサイン期間中特別オープン）デペンドラ課長より登山許可取得。

- 10/7、カトマンズを貸切中型バスにて出発、トリスリ経由ドンチェ泊。
- 10/8~14、毎日晴天。
 ドンチェ→シャブルベシ→ラマホテル→ランタン→キャンジン（キャンジン・リ手前のピーク4400mまで高度順化）→ランシサ・カルカ→モリモトBC着。ドンチェ→モリモトBCまでろば10頭に50~60kg/頭の荷物をかつがせる。モリモトBC（4572m）をグルカルポ・リ登山隊のBCとする。ここは一辺200m正三角形の平坦な草地で、左側に6×8×8mの大岩があり、東辺に小川、朝夜は凍る。モリモト・ピークが西空に頭を出してヤクが草を食むすばらしいテントサイト。
- 10/15、晴れ時々曇り。
 BC 08:40→C1 ‘デポサイト（4818m）12:30→BC 16:40
 ラマホテルから3人とも毎日ダイアモックス1錠飲んでおり以後も飲み続けるが、高山病らしき症状まったく現れずSPO2も90前後、ただし毎昼夜小便の出る回数きわめて多し。ここBCはランタン氷河本流右岸にあり東のグルカルポ・リから幅300mほどの氷河が直角に合流する地点。この氷河に入ると山なす土砂、岩石、岩屑の間をうねうねと登り進む。4時間かかっても氷河内の雪線に届かなかったが、ひとまずそこをC1 ‘デポサイトとし荷物を置いてBCへ戻る。ここからは純白でヒマラヤひだの厳しいキュンカ・リがモリモト・ピークの北に見えた。ランシサ・リを指すフランス隊4人がこのサイトにC1を張っていた。
- 10/16、晴れ。朝マイナス3度。
 休養。コックのダワはマッシュルーム/トマト/チーズ入りピザとかアップルパイ、ケーキを作ってくれ、おかゆもよく出るが、いつも3人では到底食べきれない量を作る。シェルパのバサンはエヴェレスト8回、ランタン・リルン東南稜を2004年岩手の山岳会隊含め2回頂上まで登った経験あり。サンゲはダージリン登山学校の教官でこれまたエヴェレスト数回、氷壁登攀のヴェテラン、どちらもボッカ力は日本人の倍以上あり。サーダ一格のテンバはノドにデキモノができてKTMの病院通い。ドンチェまでの隊荷の搬送、ドンキーの手配をやった後KTMに帰り10/26、C2 ‘デポサイトからの撤収日にBCから上がってきて以後KTMへの復路に同行。
- 10/17、晴れ。朝2度。
 BC 07:45→C1 ‘デポサイト 12:40
 コック、キッチンボーイをBCに残し、3メンバー、2シェルパ、1シェルパ見習いでC1 ‘デポサイトに上がりテント2つ張って泊まる。西方、シャルバチョムが東面の岩壁を鎧のごとく張りめぐらして大きく見える。ここは、北側ペンタンカルポ・リのアイスブロックを累々と連ねた側壁と、南側ランシサ・リの側壁の間の大きな氷河のど真ん中に位置している。
- 10/18、晴れ。朝0度。
 C1 ‘デポサイト 8:15→C1（5300m）12:15
 3人のシェルパでテント、食料、登攀用具すべて荷上げしてくれ、メンバーは個人装備/カメラ/通信用具/薬品などをかつぐ。兵頭23Kg、佐々木20Kg、伴10Kgぐらい。C1へは氷河の土砂、岩屑に積もった堅雪の上をゆるやかに登っていく。左からはペンタンカルポ・リ上部にアイスブロックを連ねた雪岩まじりのルンゼが多数この氷河に落ち込んでいるが、ブロンクナダレはほとんど起きず、ルート上もナダレの心配はない。右のランシサ・リからのブロック崩壊もない。西方には北から南へキュンカ・リ、モリモト・ピーク、シャルバチョム、ヤンザ・ツエニー、ランタン・リルンが勢ぞろいしている。
- 10/19、晴れ。朝マイナス4度。
 C1 10:15→C2 ‘デポサイト（5544m）12:30→C1 14:00
 全員で荷上げ。C2 ‘デポサイトはこの氷河のどんずまりの雪原で、真正面にC2（5800m）予定プラトールへ上がる200m高さのブロック状氷壁が連なり、その左寄り正面に逆くの字の雪のルンゼがスベリ台状に光ってみえる。東南の方向にはドルジェ・ラクパの北稜/西北稜/西稜、ウルキンマンの北稜、南側はランシサ・リの東稜側面でフランス隊がテントを張った雪原が見える。北の方向にはペンタンカルポ・リとグルカルポ・リとの間の氷河がせりあがり、北大隊がとりついた北西稜が望見される。

- 10/20、晴れ夕刻より雪。朝マイナス2度。
C1 08:30→C2 'デポサイト 10:00
全員で氷河最奥雪原のC2 'デポサイトに上がりテント2張りで泊まる。
C2 C3用のテント/食料/登攀用具すべて集結。夕刻より降雪チラホラ、
12日間続いた晴天がくずれる気配。
フランス隊はブロックのかけらがテントを襲ったとかで全員引き上げてしまった。
- 10/21、終日雪。風はなく深々と降る。深夜マイナス16度。
- 10/22、晴れ。
昨日1日間の積雪量は浅い所で80cm、深い所で120cm。C2プラトーへ上がる正面逆くの字ルンゼ左側は、見るからに表層ナダレの起こりそうな気配がありありとしており、すくなくとも今日1日は動けず、ここC2 'デポサイトで沈殿。
- 10/23、昨夜夜中、伴のセキ、ノドの痛み、悪寒とまらず、抗生剤を飲んでテントに居る。ヴェロックスがきいた。
佐々木、兵頭、シュルパ3人で正面逆くの字左の雪壁をラッセルしながら登るが、下から30%ぐらい登ったあたりで、トップの兵頭のすぐそばから長さ60m幅20mの表層ナダレが発生、幸い誰も巻き込まれずにすんだが、ただちに登るのを止めてC2 'デポサイトまで下山した。この正面ルートは少なくともあと1週間ぐらい晴天が続いて雪が静まらないと手をつけられない。
- 10/24、晴れ。
全員で、昨日の正面ルート基部から200m氷壁下の雪原を右上し、C2プラトーへ上がれそうな小山への雪稜ルートをトライする。雪稜ルートの下端やや上部に出た所で雪稜上部を見上げたが、雪稜右側の急斜面沿いにしかルートはとれず、この斜面も表層ナダレの危険性きわめて大きいことを観察するに及んで、そこからC2 'デポサイトのテント場へ下山した。メンバーはもちろん、シュルパたちもC2プラトーへ上がる正面ルートと小山雪稜ルートのいずれも現在の積雪状態では表層ナダレの危険性大きいことで意見一致、今回はここまででこれ以上グルカルポ・リ頂上を目指すのを断念した。
- 10/25、晴れ、夕刻よりくも湧き出す。
兵頭はシュルパを連れてこの氷河最上部からのレンポ・ガン、ドルジェ・ラクパの写真をとりに行くも、氷河最上部はクレバス多くとても通過できず、フランス隊ランシサ・リC2あたりからの写真をとるにとどまる。佐々木も鼻、ノドの粘膜がやられセキが出る。兵頭は快調。
- 10/26、晴れ。
C2 'デポサイト 10:00→BC 18:00
昨夕の雲の出方からみて今日のはっきり雪かと思いきや、ピーカン。全員BCまで下山する。途中で下からテンバが撤収ボッカのために上がってきた。降りとはいえヒマラヤで8時間超の行動はきつい。BCは夜マイナス2度と暖かい。いっぺんに食欲回復。夜はいつも満天の星空。夜中小便6回。
- 10/27、28、晴れ。
ろばが下から上がってくるのを待って2日間BCで休養。
- 10/29~11/5、曇り時々晴れ。
BC→キャンジン→ランタン→ラマホテル→シャルパガオン→シャブルベシ→カトマンズ帰着。
- 11/6、KTM発。
11/7、成田へ伴/兵頭、関空へ佐々木帰国。

以上

グルカルポ・リ 登山を終えて

佐々木 惣四郎

2007年のフランス隊の記録を見て、登るのはこの山だと感じて早速提案したのであるが、判断が少し甘すぎた様だ。山を正面からみて、とても美しく、登り安いと思ったのであるが、実際には4572mのベースキャンプに入って、荷揚げを始めたら、とても一筋縄では行かないと思った。

まずモレーン超えから始まったのであるが、ウンザリするほど長く、C1 ‘デポサイトまで、丸々4時間の道のりである。アプローチとしては当然ではあるものの、予想に反しての長さには閉口した。下りは、少しは早いかと思ったが、やはり3時間半でほとんど変わらず。あせりは禁物だと言い聞かせて我慢、我慢で乗り切ったものの、何回もの往復は、とても我慢できないと、まず思ってしまった。

C1 ‘デポサイトからの登りは、比較的雪が現われて、通常のルートになったものの、正面から見たのと違い奥が深い。つまり写真では深さが圧縮されて、短く感じるのである。

C2へのルートが始まった途端に、新雪に見舞われて、C2もC2 ‘デポサイトとなって、新雪が落ち着くのを待つ事になった。このC1からC2 ‘デポサイトも、ゆるい登りのプラトー状況であったが、これも最初の写真ではとても想像できなかった深さなのである。

C2 ‘デポサイトは5544mで、周囲の風景も断然違ってきた。特に、ランタン氷河を挟んだ側の山は、モリモトピークを挟んで、シャルパチュウム(6707m)とキュンカ・リ(6599m)があり、特に、キュンカ・リは美しい。グルカルポ側は、当初の写真の印象より、段々と大きくなる感じで、とても最初の印象とは思えない。すぐ横にドルジュラクパ(6966m)西稜が雄大な姿を見せているが、肩を並べる難しさを感じさせられた。

C2 ‘デポサイトからC2への高度差は300m余であるが、新雪をまとい危なっかしい氷壁となっていて、シェルパは雪崩が危ないとファイトロスしてしまった。まずC2が設営できないと、C2からの400mの雪壁を越えてC3に入らず、C3から400mのヒマラヤヒダからの登頂も全く実現しない。新雪の落ち着くのを待ったのであるが、何日も待つ事もできず、自分からTOPをきって登る自信もなかった。結局別のルートからのC2設営をもくろんだのであるが、ルートが長くなりすぎ、撤退の選択となってしまった。

撤退では、雪のついたモレーン越えで、7時間強もかかってしまい、暗闇のベースキャンプ着18時となってしまい疲れた。

あとから思うにこの山は、やはり難しい山である。通常のクラシックルートがないのである。要はヒマラヤヒダを登らないと頂上に行けない山なのではないか？

小生にとっては、なかなか手に負えない難物であったにも拘わらず、15日間での登頂を狙った事になる。これが今回最大の反省点になる様に思った。チャンスがあれば再度挑戦したいと思う。

聖者の白い山

兵頭 渉

モレーンで埋め尽くされた約1km幅の氷河横断に2時間。標高差100mを稼ぐのに2時間。100m先の仲間との距離がなかなか詰まらない。C1予定地の手前4818mに隊荷（フィックスザイル、スノーバー、高所テント、高所食）、高所用個人装備をデポする。ドンチェで酒を断ち、ラマホテル（2502m）で山さんの用意してくれたダイヤモンドモックスを一日一錠飲み始め、高度順化を優先させたおかげか、体調はすこぶる良い。にもかかわらずこのスロースピード！、550hpの空気は確実に運動能力を低下させる。

連日の好天の下、C1建設、C2‘デポサイトへの荷揚げ、C2‘デポサイト建設は順調に進んだが、一昼夜続いた降雪で上部キャンプへのルートを開拓できずに撤退を決意した。

グルカルポ・リ登頂のポイントは(1)高度順化、(2)天候、(3)上部2カ所の各々400mのヒマラヤ壁（雪氷壁）の登下行技術・装備とし計画、準備した。

(1)高度順化／SP02は10/9（2400m）～10/24（5544m）～10/28（4600m）期間を通して82～99、頭痛・食欲減退・横臥時の息苦しさ・歩行時の息切れ無くすこぶる順調であった。ただ、入山から五日間下痢に悩まされた。カトマンズで食べた生野菜サラダの洗浄水に原因があったようだ。

(2)天候／モンスーン開けを狙って登山期間を設定したが、見事的中した。連日の好天に出来すぎ感があった。C2‘デポサイトでのたった一昼夜の降雪で事態は一変した。4日間の予備日では少なすぎる事を痛感した。ここヒマラヤでは日程的な登頂確率上げる為に10日間以上の予備日を設定する事が必須であろう。

(3)上部2カ所の各々400mのヒマラヤ壁（雪氷壁）の登下行技術・装備／今回は試すことが出来なかった。要素技術は国内の冬山で訓練できるが、高高度・長大さは体力、耐力、強い精神力が必要であろう。逆説的では有るがこれがヒマラヤ登山の醍醐味と私は思っている。

(4)その他－費用削減について／航空運賃はタイ エアー>エア チャイナに替える事により半額（約72,000円）、キャラバン中はバッチェ利用としコック・キッチン設備代を削減、海外山岳登山保険代理店（兵頭個人の事）の見直しで約7万円減、高所食のネパールでの調達、などにより個人負担が約16万円削減出来る。今後の山行は、やはり個人負担は50万円／一回が限度と思う。

(5)その他－突破力について／今回は荷揚げ、ルート工作など多くをシェルパに負わせた。トレッキングピーク以外の登山では先頭力・突破力の有る隊員を2名以上加えた隊編成で臨み登頂確率を上げるのが望ましいと強く感じました。

以上、雑感・反省・今後の展望である。

山頂を踏めなかったのは残念でありませんが、初見の輝く山々、氷河の登下行、標高5600mでのラッセル、大いに愉しみました。

山岳会の皆さん、ランタン・プロジェクトの皆さん
素晴らしいランタンの山々へ行きましょう。

衛星携帯電話の利用について

兵頭 渉

今回、THURAYA の SAT-PHONE+携帯型 SOLAR パネルをレンタルしました。メールは SMS と E-mail アドレスへ送信できると、説明書きに有り、E-mail は 2～3 日おきにメールを送りましたが届かなかった様です。SMS は THURAYA 端末しか送受信出来ない事が事前に判っていたので試しませんでした。

電話は電波状況があまりよくなく明瞭な通話は出来ませんでした。しかもエンジンより奥に行くと衛星電波は受信しているのに衛星電話オペレーターが CHINA と表示され音声通話、音声問合せ等が一切使えなくなりました。以下は兵頭の推定です。根拠は私の GPS に搭載されている非常に大まかな地図での電話使用場所（国）と SAT-PHONE での衛星電話オペレータの表示が” CHINA” となるのがほぼ一致しています。私の GPS ではランシサカルカより奥、モリモト BC より東側は中国となっています。つまり国境線がネパール側に入り込んでいる。それ故、SAT-PHONE の電源をオンにし衛星電波を検索した際、THURAYA は SAT-PHONE の使用場所を SAT-PHONE に搭載した GPS 情報を元に割り出しその国の衛星電話オペレーターにアカウントの照会をする。わが SAT-PHONE は NEPAL の衛星電話オペレーターのアカウントを契約していたため無効と判断された。

ランタンプロジェクトの対象の大半はチベットとの国境線上にある為 THURAYA は使えないと判断します。

カラスの攻撃

兵頭 渉

今回 C1' デポサイト(4818m)、C2 'デポサイト (5544m) テント側室に置いていた食料の一部がカラスの攻撃で損耗しました。

C1' デポサイト(4818m)では、ビニール紐製の袋（土嚢用の袋を想起されたい）3袋が食い破られビスケット 36 人食（3 人×12 回）、小倉一口羊羹 20 ケ、ラーメン 10 袋、ポカリスエット粉末 10 袋が持ち去られてしまいました。

C2 'デポサイト (5544m) ではテント側室に置いていたベーコン 4 袋、魚肉ソーセージ 10 本、ウイダーインゼリー 5 袋、その他が側室の裾から進入して中から持ち去られてしまいました。

カラスはどの高度までついてくるか判りませんが、今後は 100 リッター程のプラスチックドラムに入れて荷揚げ、デポをすることが必要と思います。

行 動 記 録

日 付	曜日	内 容	泊地高度	
10月3日	月	関空11:45発-TG623-15:35バンコク		晴
		成田11:00発-TG641-15:30バンコク		
10月4日	火	バンコク10:15-TG319-12:25カトマンズ		晴
10月5日	水	カトマンズで準備(装備、食料チェック)		晴
10月6日	木	カトマンズ		晴
		パーミッション手続き(ダサインの為特別扱い)		
10月7日	金	カトマンズ => ドンチェ(車5時間)	1 9 5 0 m	晴
		シャブルベシ手前で路上落石の為、車通行止め		
10月8日	土	ドンチェ => シャブルベシ	1 4 6 1 m	晴
10月9日	日	シャブルベシ => ラマホテル	2 5 0 2 m	晴
10月10日	月	ラマホテル => ランタン	3 4 3 2 m	晴
10月11日	火	ランタン => キャンジンゴンパ	3 8 6 6 m	晴
10月12日	水	キャンジンゴンパ => キャンジン・リ手前(4400m)	3 8 6 6 m	晴
		高度順化ハイキング、登山準備		
10月13日	木	キャンジンゴンパ => ランシサカルカ	4 1 0 2 m	晴
10月14日	金	ランシサカルカ => モリモトベースキャンプ	4 5 7 2 m	晴
		登山準備		
10月15日	土	ベースキャンプ <=> C1'デポサイト(4818m)	4 5 7 2 m	晴時々曇り
		ボッカ(歩荷)		
10月16日	日	ベースキャンプで休養	4 5 7 2 m	晴
10月17日	月	ベースキャンプ-C1'デポサイト	4 8 1 8 m	曇り
10月18日	火	C1'デポサイト => C1	5 3 0 0 m	晴
10月19日	水	C1 <=> C2'デポサイト(5544m)へボッカ	5 3 0 0 m	晴
10月20日	木	C1 => C2'デポサイト	5 5 4 4 m	晴、夕刻より雪
10月21日	金	C2'デポサイト沈殿	5 5 4 4 m	終日雪
		降雪、視界不良		
10月22日	土	C2'デポサイト沈殿	5 5 4 4 m	早暁雪止む、晴
		雪が沈むのを待つ		
10月23日	日	C2'デポサイト>C2ルート工作、逆”く”の字正面ルンゼルート	5 5 4 4 m	晴
		5600mで雪崩発生。本ルート放棄。		
10月24日	月	C2'デポサイト>C2ルート工作、右リッジルート、リッジ乗越し	5 5 4 4 m	晴
		5627mで雪崩リスク有り、本ルート放棄。		
10月25日	火	C2'デポサイト沈殿。ランシサ東稜末端雪原 5581m	5 5 4 4 m	晴
		N28° 12' 47.5"、E085° 44' 19.6"へ偵察		
10月26日	水	C2'デポサイト => モリモトBC	4 5 7 2 m	晴時々雪のち曇り
10月27日	木	モリモトBC 沈殿	4 5 7 2 m	晴
		荷下ろしドンキー待ち		
10月28日	金	モリモトBC 沈殿	4 5 7 2 m	晴
		荷下ろしドンキー待ち		
10月29日	土	モリモトBC => キャンジン	3 8 6 6 m	晴
10月30日	日	キャンジン沈殿	3 8 6 6 m	晴
10月31日	月	キャンジン <=> リルンBC(4316m) 往復	3 8 6 6 m	曇り
		墓参、メモリアルプレート確認		
11月1日	火	キャンジンゴンパ => ラマホテル	2 5 0 2 m	曇り
11月2日	水	ラマホテル => シャブルベシ	1 4 6 1 m	曇り
		シャルパゴン経由		
11月3日	木	シャブルベシ => カトマンズ(車6時間)		曇り時々晴
11月4日	金	カトマンズ		曇り時々晴
11月5日	土	カトマンズ パーミッション預け金チェックアウト		曇り時々晴
11月6日	日	13:50カトマンズ TG320-18:25		晴
		バンコク23:30-TG622, 23:50-TG642		
11月7日	月	7:00関空, 8:10成田		晴

＜グルカルポ・リ 経費報告＞ 2011/11/07	\$単価	数量	USD計	日本円
1 登山料 (ロイアリティ) メンバー 3人	\$1400	1	\$1400	
2 リエゾン代	\$1800	1	\$1800	
. シェルパ装備代&日当	\$1300	3	\$3900	
シェルパ保険代(生命保険、事故保険)	\$450	3	\$1350	
コック保険代	\$150	1	\$150	
コック装備代&日当	\$900	1	\$900	
BC、トレック装備、炊事道具1式レント	\$1000	1	\$1000	
ポーター日当、トレックコスト (輸送、	\$1500	3	\$4500	
食事) シェルパ高所食				
エージェント手数料	\$600	1	\$600	
個人 小計			\$15600	
3. 装備代(メンバー)				
酸素ボンベ 4L 350気圧 (緊急用)	\$360	1	\$360	
レグレーター (レンタル)	\$200	1	\$200	
EPI ガス	\$10	33	\$330	
個人 小計			\$890	
4. 食料 高所用 ¥1000/day	¥17000	3		¥51000
5. 渡航費+viza(\$40+\$39+700BH)	¥148280	3		¥444840
6. カトマンズ滞在費 6日間 宿泊\$66/人	¥18000	3		¥54000
換算@83.80 (2011.2)	¥183280	(1)	\$16490	(¥1381862)
個人負担 合計 ¥643900(1+2)/人			÷3=	¥460621(2)
7 特別会計分 . 装備代 (共同装備)				
高所テント 4人用	\$400	6	\$2400	
ザイル 50m 8mm	\$150	2	\$300	
フィックスロープ 200m×6 8mm	\$50	6	\$300	
カラビナ	\$8.75	40	\$350	
スノーバー 60cm	\$3.5	30	\$105	
アイススクリュール	\$40	10	\$400	
雪スコップ	\$70	2	\$140	
コップェル、炊事用具 4人用	\$110	6	\$660	
EPI ヘッド	\$80	6	\$480	
マット	\$40	6	\$240	
衛星電話 (レンタル)	\$250	1	\$250	
プラスチックドラム 100L用	\$50	3	\$150	
荷物整理袋 60L用	\$8	14	\$112	
デポ代 (KTM & Kyanjun) 6カ月間	\$40	1	\$40	
. トランシーバー、バッテリー、デジメモ				¥51780
換算@84.5 (2011.2)	小計		\$5927(3)	¥51780(4)
特別会計合計 ¥552612 (3+4)			(¥500832)	

写真-1 (C1' デポサイト 4818m)



写真-2 (C1 5300m)



写真-3 (C2' デポサイト 5544m)



写真-4 (逆くの字ルンゼルート、雪崩現場)

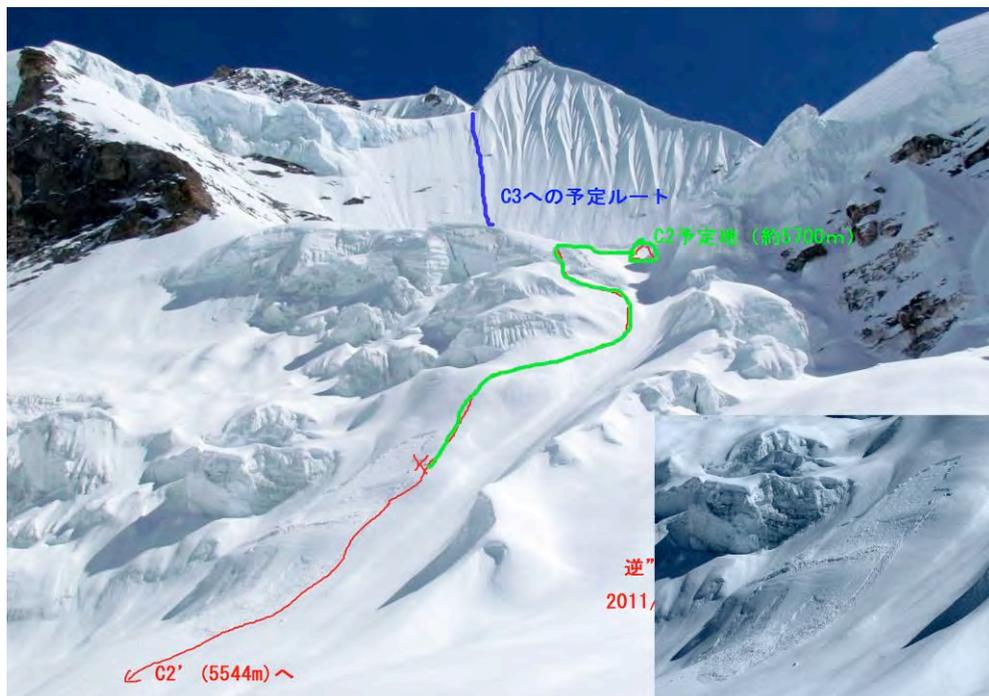


写真-5 (最高到達地点 5627m
N28° 12' 28.2"、E085° 45' 14.0" (にて))



写真-6 (ランシサ氷河を挟んで
ドルジェ・ラクパの北西稜)



写真-7 (また来ます。逆くの字、スノーリッジ 何れから上るか?)



BC



隊員 H



荷役ロバ

